



学校だより

6月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



地域に開かれた学校づくり

副校長 廣田 晃士

新型コロナ感染症による、長い長い教育活動の制限が、5月8日以降、5類への引き下げによって、ようやく解除されてきました。今年度は、コロナ禍以前の教育活動が行えるようにと年間計画も見直しています。

先週は、なかよし全校遠足が行われました。これまでとは目的地を変え、上星川小学校周辺を回ることになりました。これには、上星川小学校の子どもたちに、もっと地域のことを知ってもらいたい、地域の良さを見つけてほしい、地域の方々とかかわってほしいという思いがありました。



子どもたちはなかよし遠足に向けて、ペア学年の友だちと計画を立てたり、約束を決めたりして、みんなで楽しんでいけるように頑張ってきました。高学年の子が低学年のペアの子をリードして、優しく見守っているところが様々な場面で見られました。地域を回り、一緒に遊ぶことを通して、子どもたちから自然と笑顔があふれ、充実した活動であったことを感じました。保護者ボランティアや見守り隊の方々にも協力していただき、地域をめぐる子どもたちの安全確保に協力してくださいました。



また、今年度は「星の子地域応援隊」の活動を、地域協働活動の一環として再組織化しました。5月19日にスタートの会を開き、30名ほどの応援隊メンバーに集まっていただきました。そこでは、花植えボランティア、星の子見守り隊、読み聞かせボランティア、農園作物育て隊の4つのグループで構成された星の子地域応援隊の年間活動予定を立てました。先週5月24日には花植えボランティアの皆さんが、早速、正門前の花壇を中心に、きれいな花で飾ってくださいました。

この上星川小学校は、保護者や地域の方々がいいつも温かく、子どもたちのために様々な場面で支えてくださっています。少子化が進む現代社会の中で、地域の中心として学校が存在することが、コミュニティーのつながりを強くする要素となり、学校がその一助としての役割を担っていると考えています。コロナ禍での生活様式の変化によって、人とのつながりがSNS等の間接的接触に流れている今、人と人が直接ふれあい、それぞれの思いや考えを生で感じる事が、子どもたちの感情を豊かにしていくことにつながるのではないのでしょうか。今後も保護者や地域の皆様が開かれた学校を目指し、教育活動の充実を図っていきたいと思います。星の子地域応援隊へのご参加も随時お待ちしております！

